



7
月

パストラル尼崎

文
月

No.145, 2024 (R6) 年6月25日

〔編集・発行〕

パストラル尼崎

尼崎市潮江1丁目10-2

Tel. 06-6493-0521

Fax. 06-6493-0301

発行責任者：竹田 恵之

◆7月の歳時記◆

『ペリー一行がドン引きした“お歯黒”』

1853年7月8日は、ペリー率いるアメリカ合衆国海軍東インド艦隊の艦船4隻が「浦賀」に現れたいわゆる『黒船来航』の日です。煙を噴き上げるその威容な蒸気船は、当時の人々にとって脅威そのものだったようですが、やがて瓦版を通じてペリー一行の様子が江戸庶民の間に伝えられるとそれは好奇の目に変わっていききました。結構、日本人がお調子者だったかもですね？

一方、横浜に上陸し日本を始めて見たペリーが、『日本遠征記』に当時の日本の様子を色んな角度から綴っています。今回は、その中で当時の日本女性の事を記述した部分を抜粋してみます。



当時の女性

【ペリー提督が見た日本女性】

日本の社会には、他の東洋諸国民に勝る日本人の美德を示しているひとつの特質がある。それは女が伴侶と認められていて、単なる奴隷として待遇されていない事である。中国の女のように家畜でも家内奴隷でもなく、トルコのハーレムにおける女のように淫楽のために買入れられたものでもない。一夫多妻制ではない事実は、日本があらゆる東洋諸国民のうちで、最も道徳的であり、洗練されている国民であるという勝れた特性を現す著しい特徴である。

既婚女性が常に厭わしい歯黒をしていることを除けば、日本女性の容姿は悪くない。若い娘はよい姿をして、どちらかといえば美しく、立ち振る舞いは活発であり自主的である。それは彼女たちが比較的高い尊敬を受けているために生ずる品位の自覚から来るものである。友人同士、家族同士の交際に女性も加わり、相互の訪問、茶会は、合衆国におけるのと同じように日本でも盛んに行われている。

（接待された町役人宅の）妻や妹は、外国人の前ではいつも膝をついたままであった。このような不体裁な恰好をしていても、女たちは自分の働きを妨げられるようでもなかった。なぜなら、銀の徳利をもって非常に敏速に走り回っていたからである。盃が小さいため、酒を注ぐことがたえず必要であった。二人の婦人はいつまでも懇懃（いんぎん）で、玩具の首振り人形のようにたえず頭を下げた。また、たえず賓客に微笑をもって挨拶していたが、微笑しない方がよかったと思う。唇を動かすたびに、嫌な黒い歯と色のあせた歯茎が見えたからである。

ペリー一行にとって、『お歯黒』の記述がこの他にも出てきますが、かなり奇妙ですこぶる不評だった事がわかります。汗

大盛況！スマホ教室

先日、『個人授業でスマホ教室』～学生さんがわたしの先生～が開催されました。座学で一斉に受ける教室は、個人のスキルなどを考えると全員が満足いくものではなく、それならと、パストラル尼崎に一番近い『関西国際大学』に個人授業をお願いできないかと“突撃依頼”汗 これに対し、「ゼミの一環で協力しましょう！」と快諾して下さったのが、教育福祉科の先生方や社会連携課の職員の方々でした。当日は、ご入居者20人対学生21人+職員5人の大所帯！しかし何と言っても年の差、ザッと60歳！意思の疎通ができるものかと懸念するも、さほど時間を要するまでもなく頭を寄せあい和気あいあいと個人授業を受ける光景があちこちに…最初、大学生の緊張をほぐすようにリードしていたのは、さすが人生の師であるご入居者！そのうち、わからない事を必死で伝える生徒（ご入居者）と、かたや、どうやったら理解してくれるだろうと必死な先生（大学生）の姿も…教えてもらった草花の図鑑アプリを試そうと、早速、中庭でトライするご入居者もいます。スマホを置き、何やら楽しげな会話に花が咲いたり、いつの間にか生徒と先生の枠を超え、微笑ましい世代間交流の場となっていました。

令和6年度

パストラルシニア大学

今年度も多彩な講師をお迎えし、充実した内容でお届けしています。講師陣からその受講姿勢を絶賛されていた皆さま。今年度も是非ご参加下さい。

* 毎回フロントにお申込み下さい(席に限りがあります)

* 当日は、学生証も忘れずに！

第2回

「認知症予防について」

・日時：7月5日(金)14時～

講師：まごころ脳神経クリニック

院長 松本 強 先生



昨年のシニア大学、参加者数No1となった大人気の松本先生の講演です！最近話題の認知症の薬の事も聞けるかもしれません。